

町長発!“がんばる”トーク

町長 上川 元張



コロナ禍が収束して以降、若桜宿内の観光客は着実に増えているように感じます。国の重伝建に選定されてから3年半が経過し、まち歩きを楽しむ方や人気店を目当てに来られる方も目立つようになりました。また、若桜駅周辺では、昭和レトロな鉄道施設やSL等の体験運転を楽しむ鉄道ファンや、台湾を始めインバウンド客の姿も最近よく見掛けます。

では、そうした観光客を迎えるまちづくりとは問われると、残念ながら不十分と言わざるを得ません。例えば、重伝建の特徴を紹介し誘導する機能がない、景観にも手を加えていない、トイレやベンチなど休憩するアメニティや駐車場が不足している、鉄道の魅力が発信し楽しめる機能が少ない、店舗等の遊休施設や空き家が増えているなど、観光客目線で見ると物足りなさを感じingのではないかと思います。

もともと、若桜宿は町民の生活の場であって、観光の場ではありませんでした。人口が多かった時代には、町民が行き交い、多様な店舗が町民生活を支えてきました。しかし、過疎化が進み、空き家や空き店舗が増えるのと時を同じくして、古くからの町並みや鉄道施設の歴史的文化的な価値が認められて、観光客が増えてきました。旅

のスタイルが変化し、地域の昔ながらの生活文化を楽しむ傾向が高まったことも背景にあります。宿内の賑わいを取り戻し、地域経済を潤すためにも、観光を意識したまちづくりへと発想を転換すべき時期を迎えています。

こうした問題意識で、今年度から2ヶ年程度かけて、若桜駅周辺や重伝建エリアを中心としたまちづくりプランを策定することとしました。手狭となっている道の駅や一部遊休化している中之島公園のリニューアルも含め、若桜地区全体のまちづくりのデザインを検討することとし、4月から企画政策課内にまちづくり推進室を設置しました。

コンパクトな若桜宿には、周遊性のある、歩いて楽しいまちづくりが似合います。少し足を延ばせば、鬼ヶ城、江嶋神社、若桜神社、郷土文化の里などの文化財があるのも魅力です。町民の皆さんのご意見も伺いながら、若桜宿の良さを残しつつ、そのポテンシャルを最大限に活かしたまちづくりプランとしたいと思います。

なお、道の駅と若桜駅を結ぶ跨線橋構想は、議会の了解を得て設計予算を一旦落としました。プランづくりの中で、デザインも含めてもう少し温めることとしています。